2018年（平成30年）4月17日（火曜日）建設通信新聞

技術向上へ創造力発揮

日本建設技術 研究成果を発表

日本建設技術（佐賀県唐津市、原裕社長）は14日、同市の唐津シーサイドホテルで、グループ会社による2018年度（第15回）研究成果発表会を開いた。

古川康衆院議員ら国会議員、荒木宏之前佐賀大低平地沿岸海域研究センター長など来賓を含め約180人が参加し、技術力の向上にまい進することを確認した。

冒頭、原社長は「会社を良くするために、一人ひとりの言動は外部に見られていることを意識して行動してほしい。また、成果品の評価を少しでも100％に近づけることが会社の使命であり、それが技術力の向上や会社の発展につながる」と述べ、技術力の向上に向けて創造力を発揮するよう求めた＝写真。

成果発表では、原社長が「17年度のあゆみとラフト&パイル工法とミラクルソルの併用」と題して講演し、木材基礎を地下水位以下に保持することで耐久性を確保し、CO_2をストックする効果を説明した。

このほか、総合情報技術事業本部情報技術課の内山佳樹係長、建設事業本部第1事業部第1グループ建設1課の広津大治主任、企画開発戦略本部技術研究所材料研究室の川副紀和主任の3人がそれぞれ成果を発表した。

講評した荒木前センター長は、「個人、会社ともに技術力のレベルが上がっている。今後も社員と企業の相互作用で良い循環を加速させてほしい」と激励した。

続いて、同社と精工コンサルタント、大和地研のグループ各社で大きな業務成果を上げた優秀技術者や功労者、工事評点優秀者、資格取得者の表彰式、新入社員の紹介が行われた。